



よすみちゃん

弥生の出雲王に出会える

季刊

第56号

(2025年1月)



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

★よすみちゃん活動録2024

出雲弥生の森博物館マスコットキャラクター「よすみちゃん」がリフレッシュしてから、約1年が経過しました。

2024年は、リフレッシュ後のよすみちゃんの活動が本格化した年でもありました。以下、よすみちゃんの活躍を、写真とともに振り返ります。

◆出雲弥生の森博物館

50万人達成セレモニー



4月20日(土)に、出雲弥生の森博物館は50万人目の来館者をお迎えしました。博物館にとって一つの節目とも言えるこの日に、よすみちゃんも駆けつけました。

◆しまねっこ大感謝祭



9月22日(日・祝)には、島根県のマスコットキャラクター「しまねっこ」のデビュー15周年を記念し、「しまねっこ大感謝祭」が開催されました。このイベントで、よすみちゃんはキャラクターPRタイムや15周年記念衣裳披露ファッションショーなどのイベントに参加し、会場を盛り上げました。

◆三谷神社 秋の大御祭

11月3日(日・祝)には、「出雲弥生の森まつり 秋」を開催しました。イベント終了後、三谷神社の例祭によすみちゃんが登場し

ました。三谷神社は、国史跡・西谷墳墓群最大の四隅突出型墳丘墓である9号墓の上に鎮座しており、よすみちゃんにとっても縁深い場所です。

よすみちゃんは、地元の子どもたちや神社に参拝された方々とふれあったのち、獅子舞の宮上がりを見送りました。



この他にも、よすみちゃんは様々なイベントに参加し、博物館のPRを行いました。

よすみちゃんの活動に際しては、多くの方々にご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

よすみちゃんの活動は、今後も続きます。2025年も、よすみちゃんの活躍にご期待ください。

★速報展

「大きな溝跡みつけました」
「高西遺跡の第3次発掘調査」

2月5日(水)～5月26日(月)

今回の速報展は、出雲市塩冶町(島根大学医学部から北に約1km)の高西遺跡の第3次調査の成果を中心に紹介します。

調査は、宅地造成事業予定地内の道路部分を2024(令和6)年1月から3月にかけて実施しました。調査成果としては、調査区中央で溝跡や井戸跡などを確認し、弥生時代、奈良時代、鎌倉時代の土器などの遺物が出土したことが挙げられます。

溝跡の規模は幅が5.5m、深さが約1.5m。この溝は調査地周辺を南から北に流れ、上層からは中世前半の土師器が、また、最下層溝の底、深さ1.5mからは、弥生土器や奈良時代の須恵器などが出土しました。

高西遺跡では、近年、市道改良工事に先立って2度の発掘調査が行われました。

今回は、その成果もあわせて、最近明らかになりつつある高西遺跡の状況を検討してみたいと思います。
(石原 聡)



今回確認した溝跡(南東から)



出土した遺物

★野崎千愛季 創作人形展

「土薫る人形たち」

松江市在住の人形作家、野崎千愛季さんによる創作人形展が、当館企画展示室にて始まります。

2023(令和5)年には、市民ギャラリーで「創作人形展」を開催し、多くの方にご来館いただきました。当館では、今回が2回目の開催となります。

野崎さんの人形は、緻密な造形描写と、それによって生まれる生命力・感情の表出が特徴です。人間がこの世を生きていく中で抱くさまざまな思いが、一体一体の人形の内に込められています。

「土薫る人形たち」と題した本展では、創作人形や絵画など、およそ40点の作品を展示します。

当館は、人々の生きる姿を土中の遺物から探っていく場でもあります。土から生まれた人形たちを通じて、人間の生きる姿を感じていただければ幸いです。

◆会期 2025年1月18日(土)～2月17日(月)

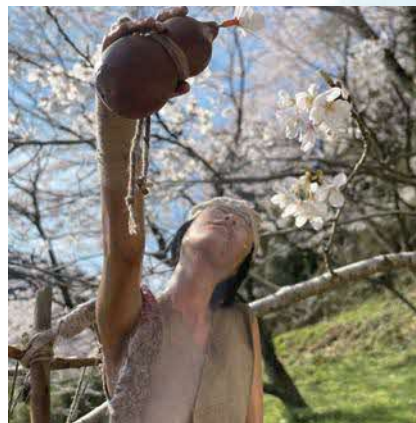
9時～17時(入館は16時30分まで)
休館/火曜日(2月11日(火・祝))
は開催。翌日は休館。

◆場所 企画展示室



▲野崎千愛季さんの
Instagramはこちら
のQRコードから

▶《幸せ》(島根県展知事賞)



▶《命のいろ》(第10回日本美術展
第3科(彫刻科)入選作品)





★弥生の御朱印巡り

リニューアルスタート！

2022(令和4)年10月8日から開始している「弥生の御朱印巡り」の第三弾が2024(令和6)年10月30日から始まりました。

新たに9遺跡9施設が加わり、特に、北陸地方の遺跡(施設)が加わることで、連携範囲が大幅に拡大しました。

そこで、このたび北陸から九州までの主要弥生時代遺跡関連施設35遺跡38施設が連携して実施する「弥生の御朱印巡り 全国版」としてリニューアルスタートします。

オリジナリティー溢れる「弥生の御朱印」を集めながら、全国の個性豊かな弥生時代の遺跡を巡っていただき、教科書では語り尽くせない様々な弥生時代の遺跡を体感してください。

★出雲王墓の里文化財ガイドの会

会員募集中

出雲弥生の森博物館の常設展示や西谷墳墓群などのガイドを行っていたべくボランティア会員を随時募集しています。出雲市内や山陰地方の古墳・遺跡などを巡る研修会や月例談話会も行っています。お申込み・お問い合わせは博物館まで。

ガイド活動を通して、一緒に出雲の歴史を楽しみましょう。

●募集対象

年齢・性別・経験等不問

●活動頻度

概ね月1、2回程度

※ガイド依頼の状況による。

ご都合のつく範囲でご参加ください。

●活動内容

・見学希望があった個人・団体へのボランティアガイド

(出雲弥生の森博物館 常設展・西谷墳墓群・今市大念寺古墳・上塩冶築山古墳)

・月例談話会(王墓サロン)

・出雲市内外での研修

・その他火起こし体験の補助などの活動も行っています。

☆無料ガイドの申込も随時受付中

★古文書の森をゆく⑳

古文書を保管するには(取扱い編)

このコラムの第19回で、古文書の保管環境について解説しました。今回は古文書そのものの取り扱い方についてお話ししたいと思います。

まず、古文書の取り扱いの基本は基本的に素手で行いますので、古文書に触れる前に手をきれいに洗ひましょう。ハンドクリームなどを塗ったまま古文書に触れると油分などが紙に移り、シミや劣化の原因となります。古文書を傷つける可能性のある指輪や腕時計なども手から外しておきましょう。

容器から取り出した古文書が袋や紙綴り(和紙をひねって紐状にしたもの)でまとめられていた場合、そのままとまりを壊さないようにします。その当時の人が意図をもつてまとめている可能性があるからです。古文書が汚れている場合は、まとまりごとに取り出して



刷毛で汚れをはらう作業

柔らかい天然毛の刷毛や筆で汚れやほこりを落とします。虫食いや水濡れで紙どうしが接着している場合は無理に剥がすと古文書が破れてしまうので、無理のない範囲で行いましょう。

汚れを落とした古文書は元のままとまりごとに容器に入れ直します。過去に古文書が整理されている場合、輪ゴムや金属製のクリップでまとめられていることがあります。これはすぐに外してください。輪ゴムは時間が経つと固くなり、紙に接着してしまいます。ただ、付着してしまった輪ゴムは無理に取ると紙が破れてしまうことがあるので注意が必要です。金属製のクリップは錆が紙に付着すると、紙が劣化して破れてしまいます。また糊で紙が変色・劣化するので、セロハンテープや糊付きふせんも使つてはいけません。もし何かでまとめたい時は和紙で作った紙綴りや、綿など自然素材の平たい紐や糸を使うとよいでしょう。

ご自宅に古文書と思われる古いものがあるけど、どうしたらいいかわらんわーというときは、ぜひ文化財課へご相談ください。

(赤木 薫)

休館・休室のお知らせ

館内照明のLED化工事に伴う休館・2階展示室休室の日程は次のとおりです。

休館 2月18日(火)～2月21日(金)
休室 2月22日(土)～3月7日(金)

★展示のご案内

▼ギャラリー展

開催中～1月31日(金)

「出雲の近代建築」

●ギャラリートーク

1月12日(日)

※10時～参加無料・申込不要

▼速報展

開催中～2月3日(月)

「市指定史跡 矢野貝塚を掘る」

「弥生時代出雲のムラと暮らし」

2月5日(水)～5月26日(月)

「大きな溝跡みつかりました」

「高西遺跡の第3次発掘調査」

▼野崎千愛季 創作人形展

「土薫る人形たち」

(企画展示室)

1月18日(土)～2月17日(月)

★体験教室のご案内

▼レジンで勾玉作り!!

1月26日(日)10時～11時

●場 所 たいけん学習室

●募集人数 先着20人

(要事前申込)

●講師 あるほか

★講座・講演会のご案内

▼プロが語る!

出雲の歴史・文化財講座

いずれも14時から

① 2月8日(土)

「出雲と二ホンアシカ」

●講師 佐藤 仁志氏

(松江市文化財保護審議会委員)

② 2月15日(土)

「手銭家蔵書調査から

見えてきたこと」

●講師 佐々木 杏里氏

(公益財団法人 手銭美術館

学芸員)

③ 3月1日(土)

「島根県の石いっしゅ鉱山と

日本の近代化」

●講師 中村 唯史氏

(島根県立三瓶自然館

サヒメル 学芸員)

講座・講演会の申込について

定員 各80名 当日受付なし

事前申込必須(電話・メール・FAX)

各回300円

●申込受付時間 9～17時

●必須事項 氏名・電話番号

★館長古来夢

ここ数年、瀬戸内海を超えて、四国に渡る機会が増えた。最初は讃岐国府跡(香川県坂出市)の保存活用計画策定委員会だった。讃岐国は菅原道真(845～903)の赴任地(886～890)でもあり、『菅家文章』に国府周辺の情景が読み込まれている稀有な土地でもある。それもあって地元住民からの保存活用の熱があつかった。

三年前からは、高知県安芸市と関りができた。南海トラフ地震に備えて統合中学校を新築しようとしたところ、敷地から古代の官衙遺跡が姿を現したのだった。瓜尻遺跡という。七・八世紀の建物跡が70棟以上立ち並び、なかでも一辺25mの溝と区画堀に囲まれた中に、井戸と建物が配置された遺構(方形区画遺構)は全国的にも類例がなく、保存が熱望された。

幸い、安芸市の英断により建物の配置を変更することによって、この方形区画遺構は中学校の敷地内に保存されることとなった。しかも、校内に遺構の復元表示が実現した。グーグルマップで安芸中学校を検索すると、航空写真でこの表示が確認できるので、ぜひ。

復元にあたり解説板も設置した。学校の構内ということもあり、中学生でもわかる文面を目指し先生方との協議をおこない、さらに親しみのある内容を、との要望から考古イラストレーターの早川和子さんに遺跡の復元図を描いてもらい掲載した。早川さんは高知のテレビにも出演され、古代の復元イラストがもたらす楽しさや親しみを語っておられる。

さて、瓜尻遺跡からはコンテナ三百箱を超える古代瓦が出土した。これをどうにか資料化するための指導助言が私に与えられた命題。安芸中学校の生徒が「うちの学校の敷地は国史跡なんだって」と口にする日までがんばらなきゃ、と思う。(花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館

2025年1月

〒693-0011
島根県出雲市大津町2760
(TEL) 0853-25-1841
(FAX) 0853-21-6617
(E-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp
<https://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori>

- 入館料 / 無料
- 開館時間 / 9:00～17:00
(入館は16:30まで)
- 休館日 / 火曜日
(祝日の場合は翌平日)
年末年始

